

「土砂災害について学ぶ」

岐阜県 海津市立城山小学校 4年 ^{やまもと} ^{おね} 山本 音々

私は土砂災害や地震などの災害にあったことがありません。しかし2年前の秋、私の町では大雨が降り、ひなん勧告が発令されました。道路にあふれた水は流れを作っていました。家の近くには羽根谷があります。今までに見たことのない泥水と木や石などが交ざった水が勢いよく流れていました。その羽根谷には、いくつかの砂防が作られています。もし砂防がなかったら、あの大雨で土砂がけずられ、土石流になっていたのかもしれない。

家の近くにあってもあまり深く知らなかった砂防遊学館へ行きました。土砂災害には、がけ崩れ・土石流・地すべりがあります。養老山地は大昔から大雨が降ると、たちまち谷があふれ、土石流が発生しやすかったそうです。そしてその土砂が川に積もり、木曾三川の洪水にえいきょうを与えることを知りました。羽根谷の砂防は明治時代にヨハネス・デレーケの指導によって作られた、大きな石を積み上げた巨石積えん堤です。草木のなかった山にはクロマツが植えられました。およそ 120 年も前に作られた砂防によって守られていることをはじめて知りました。

地震や土砂災害が各地でおこり、そのたびにニュースなどで被害の大きさを知りますが、どこか人ごとのように見ていました。今回はじめて土砂災害について考え、たくさんのことを学びました。自分の住んでいる町の地形の特ちょうや、どんな危険があるのか、砂防とは何か、砂防が多くあるということは、それだけ危険であるということを知りました。

次は何をするべきかを考えました。まずは注意しなければいけない情報をえることです。降雨量や川の水位、土砂災害情報、ひなん情報などです。テレビやラジオ、市のホームページ、防災無線など注意深く聞くことです。そして危険を感じた時は、早めに自主ひなんをすることです。家族で、ひなん場所まで、どのように行くのか、マンホールなどの危険か所を確認しようと思います。私の家では、防災用品を各自用意しています。使い方や、命を守るために、本当に必要な物は何かについてよく話し合っています。防災用品は、命があって使えるものです。いざとなったら体一つで逃げなければいけないことも話し合っています。けれどじゅんぴをするのは、自分の命を自分で守る努力をしなければいけないと思うからです。自分のために使わなくても、人のために使えるかもしれません。災害のニュースを見るたびに家族で確認しあうことは続けていきたいです。

今年は、いつもの年より早く、多くの台風が発生しているそうです。それだけ災害もめずらしいものではなくなっているのです。人間の手によって、温だん化を進めていること。山の緑がへり、山があれ、土地が弱っていること。土砂災害に強いかんきょう作りを考えなければいけません。私ができることはエコ活動や、緑化活動などです。他に何ができるのか考えていきたいです。